

エネルギーから始まるまちづくり

温泉の可能性を広げ、雪を恵みとして価値転換したエネルギー・土木・建築・食にまでわたる観光まちづくり

松之山温泉合同会社まんま

新潟県十日町市松之山湯本地区

温泉エネルギーをまちづくりのエネルギーへと再構築する

新しいまちづくり活動のきっかけ

98°Cの高温で自噴する松之山温泉は郷と郷がトンネルで結ばれた昭和60年代まで、陸の孤島の異名を取った豪雪地域である。夏には大勢の湯治客をお迎えする温泉地であったが、冬季間は交通が途絶えてしまう為、夏稼いだ分を冬に食い潰す生活を長く続けてきた。ギリギリの生活の中では景観という観点など地域住民に生まれてこなかったのは当然であり、とにかく目の前の雪を消し去りたいだけだった。ただそのお陰で、里山の自然との共生共存が脈々と営まれ、独自の生活や食文化の価値が根付いた。

そんな中で温泉バイナリー発電の実証実験の始まりは、地域の人々にとって「温泉」というエネルギー資源を見直し、様々な取り組みにチャレンジするきっかけとなった。

バイナリーは発電の余熱を使うことから始まった温泉熱利用の消雪パイプは、道冬の除雪の難を軽減し、いままで考えられなかった「美しいまちをつくる」という景観整備を始めることを可能にした。

また、温泉熱を調理などに使った新しい食文化の創出、雪国文化の伝承など、温泉と雪から生まれる新しい魅力づくりに取り組んでいる。

温泉バイナリー発電

環境省が行った温泉バイナリー発電の実証実験。温泉とアンモニアを熱交換して蒸発させたアンモニアによってタービンを回して発電する。

この発電所の建設がまちづくりのきっかけとなり、様々な取組みが始まった。道路の消雪パイプはまちの人々の心も溶かしたのである。



道路の消雪パイプ



以前の松之山温泉



日本有数の豪雪地帯、松之山。冬には建物や雪に埋もれてしまうほどの積雪がある。



除雪車がない時代には、積雪によって道路が封鎖され、陸の孤島になってしまっていた。



除雪車は道路の舗装をボロボロにし、除雪の邪魔となるため、街路樹や街灯などのストリートファニチャーは置けなかった。



蛍光灯の白々しい街灯は、雪国の寒々しさを強調していた。観光地とは思えない殺風景な夜の温泉街だった。



魅力のない貧しい街路空間では、観光客の心に散歩に出ようという動機は生まれなかった。



改修前の里山ビジターセンター。コンビニだった建物をそのまま利用していたため、観光客が入りづらかった。



松之山温泉
MATSUNOYAMA ONSEN



みんなで温泉エネルギーと温泉街を考える

景観+ブランドビジョン策定ワークショップ

松之山温泉では、地元のメンバーが外部のデザイナー、建築家などと一緒に 2013 年より定期的に景観ワークショップとブランディング策定ワークショップを行っている。

景観ワークショップでは、まずはじめに松之山温泉の将来ビジョンを議論し、そのイメージを描きみんなで共有した上で、目標設定を行なった。同時に目標とすべき事業スケジュールのロードマップを作成し、事業化が可能なものから随時整備を行っている。

ブランドビジョン策定ワークショップでは、ブランドの基盤となるビジョンを抽出し 10 の構成要素にまとめた。10 の要素のうち、強い訴求力を持ち、違いを際立たせるものをブランドビジョンの中核要素とし、その他を拡張要素として整理している。

景観ワークショップの成果は、実際に事業として随時実現しており、ブランドビジョンはさまざまなイベントや「松之山ストーリーズ」という WEB サイトなどで具現化している。



まちづくり勉強会の様子 (2013 年 12 月)



景観ワークショップの様子 (2014 年 5 月)

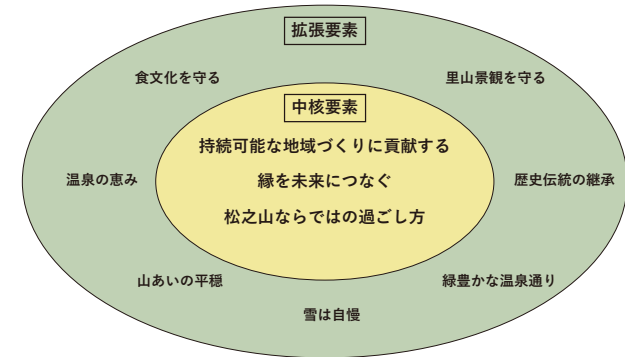


ブランディング策定ワークショップの様子 (2017 年 1 月)

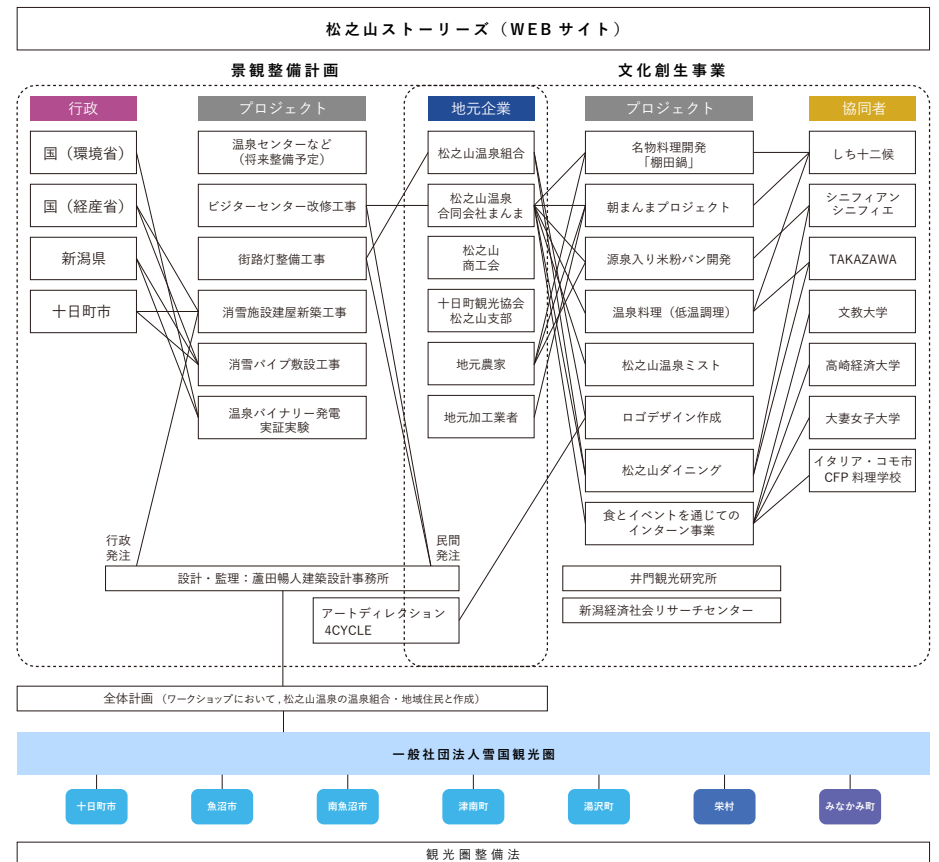


景観ワークショップで描いた景観整備イメージ (2014 年 5 月)

松之山温泉ブランドビジョン



組織図



温泉エネルギーからまちのデザインへ



消雪施設機械格納庫 (2015年5月完成)

道路の消雪パイプの稼働させるための機械を格納する小屋。景観整備のパイロットプランとして位置づけられている。

内部には熱交換器とストレーナーを備えており、温泉と河川水を熱交換し、道路に散水している。建物全体はこの地域の雪囲いを参照した越後杉足場板で覆われている。建屋前のスペースは、今後ポケットパークを整備する予定である。



コミュニティセンター「地炉」 (2014年3月完成)

古民家を移築してつくったコミュニティセンター。内部に囲炉裏や温泉低温調理のできるキッチン、通りに面した縁側に足湯、温泉フェイスミストなどを設けている。さまざまなイベントなどに利用しているほか、日常的に一般開放もしているため、観光客の憩いの場としても機能している。温泉熱を屋根の融雪や床暖房などに利用している。



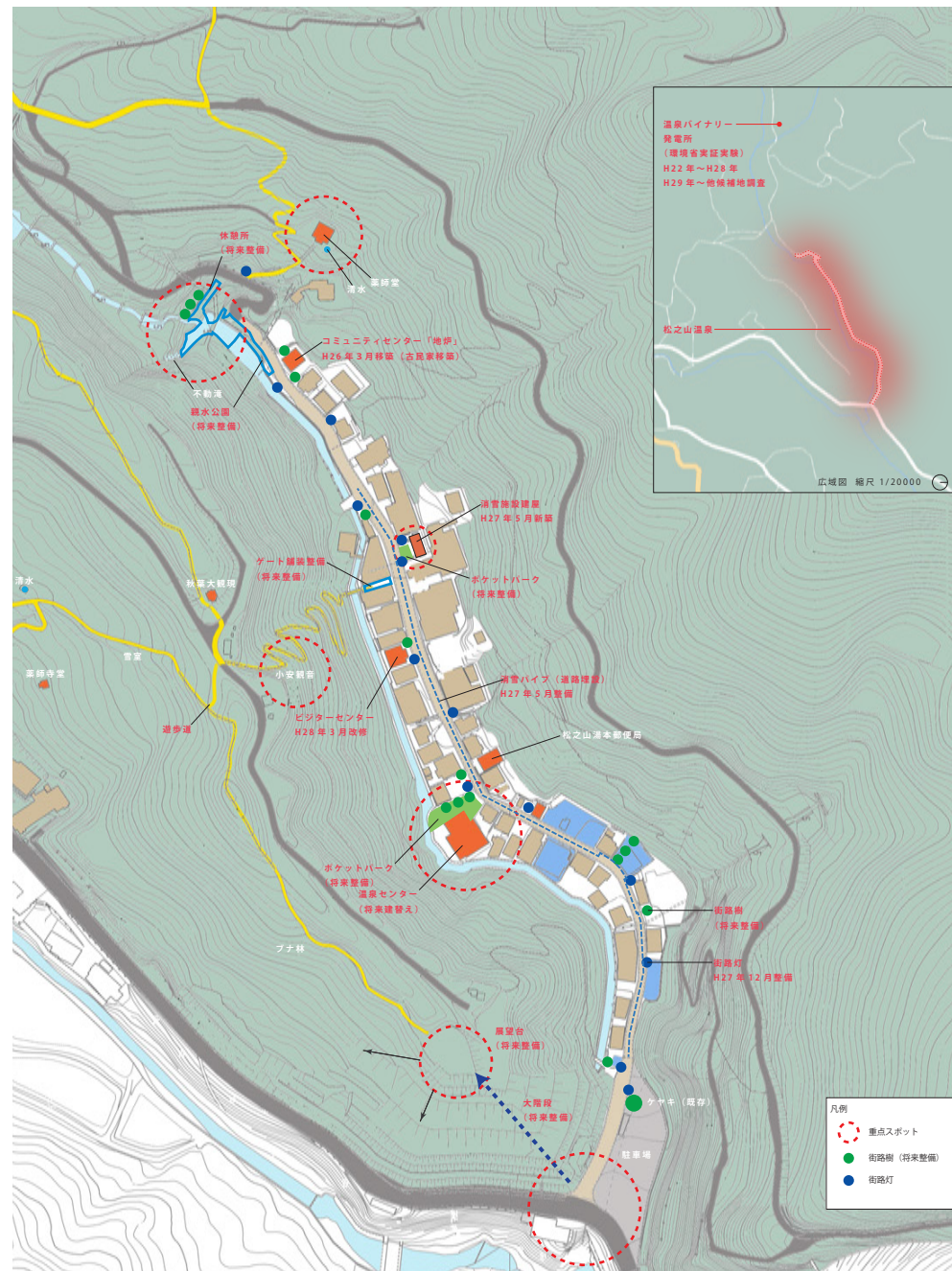
街路灯 (2015年12月完成)

街路灯をLED化する際に合わせてデザインした街路灯。雪切りとなるシンプルな形状で、華やかな装飾を施さない、豪雪地帯らしい質実剛健なデザインを採用した。バナーポールも設け、イベントや季節ごとにバナーによって通りの統一感と賑わいをついている。将来的には温泉街の電柱の地中化を目指しているため、地中化を前提にしたデザインとし、現在は仮設アームで受電している。



里山ビジターセンター (2016年3月完成)

元々コンビニであった建物を、いままでビジターセンターとして使用していた。しかしながら観光客が入りづらく、内部も使いにくいしつらえであったため、景観整備に合わせて改修工事を行った。内照式の看板など建物の要素をうまく再利用した。消雪施設建屋と同様、越後杉の足場板で覆っている。温泉街の統一的なデザイン要素として、この足場板を今後も景観整備の軸にしていく予定である。



温泉エネルギーを食、ブランディングへ

雪国の文化と歴史を受け継ぎ、さらなる挑戦を続ける

松之山温泉では、地域の食材や温泉を活かした様々な新しい食文化をつくるため、様々な食の開発を続けている。地元の人たちだけでなく、松之山出身のシェフなど地域外で活躍している料理人と共同開発して、質の高いメニューを開発しているのが特徴である。

- ・ 棚田鍋
- ・ 朝まんまプロジェクト
- ・ まんまの前菜「温故知新」
- ・ ぐるぐるバケットの囲炉裏焼き
- ・ 湯治豚、湯治卵

さらに、大学生のインターンを受け入れるなど、様々なイベントを企画し、地域外の人たちが訪れたいくなるような温泉街の魅力づくりを行うとともに、「松之山ストーリーズ」というWEBサイトを構築し、情報を発信している。

- ・ 「地炉」でのイベント
- ・ 松之山温泉 JAZZ ストリート
- ・ 山菜パーティー、きのこパーティー
- ・ 雪国ガストロノミー



WEB サイト「松之山ストーリーズ」



松之山ダイニング



コミュニティセンター「地炉」での大学生とのイベント



温泉低温調理「湯治豚」



温泉低温調理「湯治豚」



朝まんまプロジェクト



温泉ウォッシュチーズ